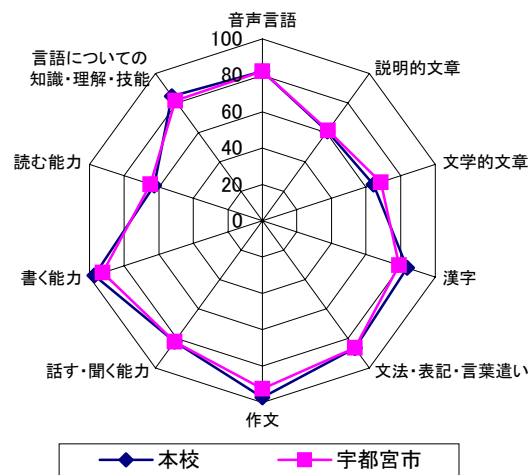


宇都宮市立古里中学校第1学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	82.2	82.3
	説明的文章	60.7	61.3
	文学的文章	64.3	68.4
	漢字	83.6	79.1
	文法・表記・言葉遣い	86.7	86.5
	作文	97.2	92.5
観点別	話す・聞く能力	82.2	82.3
	書く能力	97.2	92.5
	読む能力	62.5	64.9
	言語についての知識・理解・技能	84.6	81.6



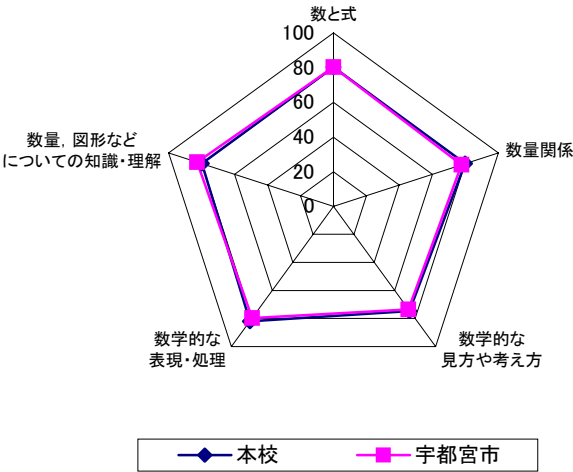
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (82.2%)	宇都宮市平均と比して-0.1%であった。概ね平均的な状況である。 話される話題の内容を正確に把握する能力はあるが、構成や表現上の工夫をとらえることが苦手な傾向がある。	友人の発表を聞き、優れている点を挙げさせる活動を通して、構成や表現を工夫して話す力を身につけさせる。また、わかりやすく正確にメモを取る方法を意識させ、大事なところを落とさずに聞く能力を養う。
説明的文章 (60.7%)	宇都宮市平均と比して-0.6%であった。概ね平均的な状況である。 説明的文章の要旨を把握する能力は高い。しかし、文脈に即した内容理解の能力に課題がある。基本的な読解の技能が身に付いていない生徒が多い。 特に、筆者の意見の根拠が何であるかを把握する能力が低い傾向にある。	精読的な指導に偏りすぎてはいけませんが、説明的な文章の読解に求められる最低限の能力は身につけさせたい。特に、事実と意見の正確な読み分けの能力を養う必要がある。段落の冒頭の表現や、文末の表現に着目させ、事実と意見が明確に区別され、さらに、筆者の意見の根拠となる事実とは何であるかを、正確に把握できる読解のスキルを身につけさせる。
文学的文章 (64.3%)	宇都宮市平均と比して-4.1%であった。 特に、登場人物の心情理解に、大きな課題がある。	登場人物の心情に接近するためには、多角的な文章理解が求められる。発言や行動、情景描写にまで心情は滲み出るものである。これを踏まえ、心情が文章のどういう表現に表れているかを考えさせ具体的に指摘させる学習活動を行う。さらに、それらの表現にどういう心情が内包されているかを話し合い、登場人物への共感や理解を深める活動を行う。
漢字 (83.6%)	宇都宮市平均と比して+4.5%であった。書き取りも読みも偏りなくできている	現在、漢字の小テストを継続的に実施し、漢字に関する知識の定着を図っている。さらにそれを、定期テストの範囲に指定し、繰り返し反復学習ができるように配慮している。今回はその成果が現れたので、今後も継続していく。さらに、家庭学習と連動した漢字学習のサイクルを確立し、漢字の読み書き能力のさらなる向上を目指す。
文法・表記・言葉遣い (86.7%)	宇都宮市平均と比して+0.2%であった。概ね平均的な状況である。 故事成語の問の正答率が特に低かったが、文法・漢字の部首の正答率は高かった。	文法や語法等に関しては、反復して問題演習を繰り返しているため、必要な知識は定着している。しかし、故事成語は正答率が低かった。折に触れて、さまざまなことばを紹介し、生徒が理解して、さらに使用できる語彙を増やしていく。
作文 (97.2%)	宇都宮市平均と比して+4.7%であった。比較的良好な状況であった。 特に、語を適切に用いた短文を作る能力が高い。簡潔に自分の意見を記述する力も付いている。	本学年は、作文を書かせることと書きぶりがたいへんよい。作文を書く学習活動をするときに、ことばが続かずに、何十分も何も書けずに終わってしまう、などという生徒は、比較的少ない。適切な文章の型を身に付けた生徒が多くなりつつあり、そつなく書いて表現する能力が身についてきている。今後はさらに、自分の考えを、明確な根拠を添えて、簡潔に述べることのできる能力を養う。

宇都宮市立古里中学校第1学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	80.3	80.2
	数量関係	79.8	77.6
観点別	数学的な見方や考え方	74.6	73.5
	数学的な表現・処理	82.0	79.7
	数量、図形などについての知識・理解	79.8	82.6



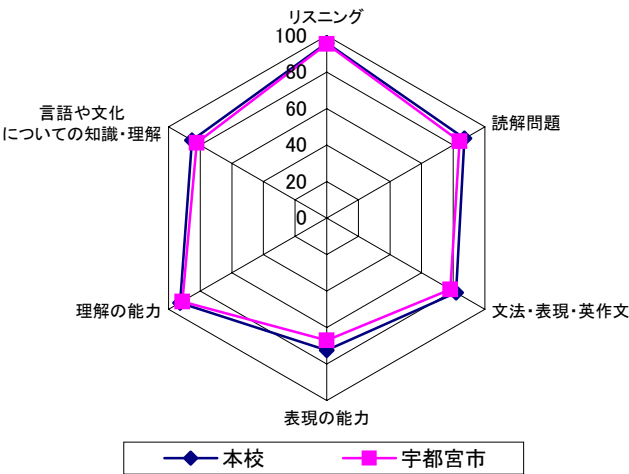
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (80.3%)	正答率は宇都宮市の平均より0.1%高い。基本に関する部分は概ね良好である。8割以上の正答率であるが、方程式の利用の過不足の問題がやや苦手なようである。本年度は、計算力を高めるために、単元プリントを実施し、反復練習に努めた。	基礎基本の定着を図るために、反復練習に力を入れる。方程式の利用などの文章問題については、教科書の例題で考え方をよく理解した上で、図や表を活用させ、いろいろな種類の発展問題に挑戦させていきたい。
数量関係 (79.8%)	正答率は宇都宮市の平均より2.2%高い。基本に関する部分は概ね良好である。表やグラフの活用がやや弱い傾向にある。本年度は、表、式、グラフの関連性を意識しながら授業を進め、単元プリントを実施し、反復練習に努めた。なお、全領域に関して正答率が90%以上の生徒が、46.1%を占め、宇都宮市よりも3.5%高い。	関数に関する基本事項の確認を徹底させる。1つの課題に対して、多様な考え方を生徒から取り上げて、全体で考えていくことにより、表、式、グラフの関係を関連づけていく力を養っていく。また、全領域にわたり、関数感覚を養っていく問題を扱っていききたい。2年生では、数量の変化、グラフ、式に加えて、方程式との関連が重要となる。数学的な見方や考え方を伸ばすべく、高度な課題へもチャレンジさせたい。

宇都宮市立古里中学校第1学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	リスニング	96.0	95.5
	読解問題	87.2	84.0
	文法・表現・英作文	81.8	78.2
観点別	表現の能力	72.5	67.1
	理解の能力	92.9	91.4
	言語や文化についての知識・理解	85.3	82.3



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング (96.0%)	正答率は96.0%と正答率が高く、宇都宮市の平均をやや上回っており、英語を聞き取る力はおおむね定着していると考えられる。	英語による授業やALTとの対話活動を多く取り入れたり、教科書の音読を通してイントネーションや音の連結など、英語特有の音に慣れさせていきたい。
読解問題 (87.2%)	正答率は宇都宮市の平均を3.2%上回った。特に対話文を読み、その内容について答えを選択する問題はよくできていた。	重要表現や会話文特有の表現など繰り返し学習することで定着を図りたい。また、長文読解では大まかな文の流れをつかみ、それをまとめる能力を身につけさせたい。
文法・表現・英作文 (81.8%)	正答率は宇都宮市の平均を3.6%上回った。ただ、「初対面の相手にあいさつする」表現など口頭ではすらすらと言えるが書くことになるとできないといった課題が残った。	文法や語彙等をさらに定着させるために、単語テストや単元テスト等を通してさらに練習量を確保する。また英作文においては、生徒に興味を持たせるような題材を設定し、発表の場を多く設けて学びあいながら英語の表現力を高めていきたい。